

さらには、今後も、台風・低気圧災害等に対するホタテガイ施設の減災対策に引き続き取り組むなど、災害に強い漁業地域をつくり、安定的で持続可能な漁業を推進してまいります。

また、漁船漁業においては、海洋環境の変動により依然としてイカやスケトウダラの不漁は続いております。さらに、昨年の秋サケについては、数量的には若干持ち直しましたが、価格面では安価で推移したことから、厳しい状況が続いております。これら回遊資源の回復や生産増大に向けた取り組みが重要であることから、引き続き、関係団体と連携して、安定生産に向けた資源づくりと漁場造成・資源の管理を進めてまいります。

サケの回帰率向上と資源増大を図るため、落部川流域にさけ養殖施設を整備するため、水質等の各種調査を進めてまいります。

熊石地域では、北海道大学大学院水産科学研究院と共同で海洋深層水を活用した研究事業に取り組み、熊石地域はもとより、八雲町の水産業の

活性化に資するよう事業を推進してまいります。

水産物の消費流通対策では、産地として消費者に安全・安心な水産物を供給することを最優先に、漁業者が主体となって消費拡大に向けた6次産業化について、事業展開の可能性について関係者と協議してまいります。

また、担い手や漁業就労者対策、水産加工業の振興などさまざまな角度から支援するほか、漁港整備事業については、これまでの老朽化対策に加え、港内機能向上に向けて、関係機関に要請してまいります。



### (3) 商工業の振興

八雲町の商工業者の大多数が小規模事業者であります。が、地域経済の担い手としては、非常に大きな存在となっております。

一方、将来を見据えると、事業所や就業者の減少から、生産規模の維持については、非常に厳しい状況となることと想定されております。

こうした事態に対応するためには、既存事業者の円滑な事業承継や、新たな事業活動の展開などの多面的な取り組みを促すことが重要であると考えております。

このためには、商工業を担う優秀な人材の確保と育成がなにより大切であることから、これを専門に実行するための体制を整備するとともに、設備投資の促進や新たなビジネスチャレンジに対して、総合的に支援するための施策の具体化を引き続き図ってまいります。

熊石地域で展開している海洋深層水については、水産試験研究を通して新たな事業展開を模索するとともに、引き続き企業誘致活動に取り組んでまいります。

### (4) 観光の振興

平成26年の「丘の駅」のオープンを皮切りに、観光と物産の振興に関するさまざまな施策を展開し、おおむね5年が経過いたしました。

「丘の駅」については、年度によって売り上げの増減はありますが、おおむね順調に推移しているとともに、一定の経済効果と事業者育成の使命は果たしているものと評価しております。

また、合わせて実施してきましたソフト事業によって、事業者や関係団体のレベルも向上してきているものと考えております。

今後は、観光、物産の両分野ともに、事業者自らが実施すべ



きこと、関係団体が実施すべきこと、さらには行政が担うべきことをしっかりと意識した取り組みとなるよう、関係者間の調整を行ってまいります。

熊石地域では、道南休養村を中心に、観光客等、交流人口の拡大に努めてまいります。

### (5) 雇用の創出と雇用環境の向上

少子高齢化や人口減少が加速するなか、八雲町における産業の担い手不足、町外への労働力の流出が、大きな課題であることは明らかです。

この課題への対応として、産業・経済団体と町が丸となって、新たな視点による総合的な解決策を見出すために実施してきました「八雲町産業人材確保・育成事業」も、平成31年度で最終年となります。

これまでの事業活動において、八雲町における産業人材の確保・育成に向けた課題と対応の方向性を整理してまいりました。今後は、ふるさと応援寄附金制度を活用し、商業分野の人材育成など、新たな方向性について、順次具体化を進め、雇用の創出を図る取り組みを進めてまいります。